

活動報告書

報告者氏名: 大杉 仁彦

所属: 京都市立桃陽総合支援学校

記録日: 2014年 2月 26日

【対象児(群)の情報】

○学年 小学部 4年生

○病名 慢性疾患

○病名と困難の内容

- ・5月20日より入院。タンパク尿を抑えるため安静が必要。
- ・2ヵ月以上にも及ぶ入院生活と、入院延長により前籍校の7月の宿泊学習にも参加できなかったため、病気に対する不安と孤独感が一層大きくなっていった。

～訪問教育～

- 京都市内の病院に入院している小・中学生を対象とし、病院に訪問し、ベッドサイドや病院内の部屋で授業を行う。
- 週3回、1回2時間の学習。

【活動目的】

○当初のねらい

- ・iPadを本人に貸し出すことにより、訪問教育以外の自主学習の確立。
- ・2台のiPadを使用し、本人が入院している病院と前籍校や京都市立桃陽総合支援学校本校(以下本校)とビデオチャット交流を行い、前籍校や本校の児童・生徒とのつながりをもつ。
- ・本児童は鳥が好きで、知識が豊富であることを活かした交流ができればいいと考えた。訪問教育のない日などの時間を有効利用するため、iPadを本人に貸し出し、鳥についての調べ学習を行い、無料ノートアプリで、鳥の写真と調べた内容をレイアウトする活動を行う。

○実施期間

6月7日～7月24日

○実施者 中田 裕子 ・ 加納 由紀子

○実施者と対象児の関係 訪問教育担当



【活動内容と対象児(群)の変化】

○対象児(群)の事前の状況

- ・訪問教育以外の時間、宿題や課題を終えても、時間を持て余していた。
- ・本児童は、保護者の教育方針で携帯電話やゲーム機器などに触れたことがほとんどなく、iPadの操作に慣れるまで時間がかかると予想された。
- ・本児童はビデオチャットなど、カメラに本人の顔が写ったり、会話をしたりする交流に対して消極的だった。

○活動の具体的内容

- ・インターネットで好きな鳥について調べ、操作が簡単な、『ノート Free』で図鑑の形にまとめる活動を行った。検索サイトは、保護者の意向でいくつかのサイトに制限することになった。検索可能なサイトはウェブブラウザアプリの『Puffin』でブックマークに指定し、そこからのみ検索を行うように取り決めた。
- ・完成したノートは本校にいる担当教員にメールで送信。担当教員は送られてきたデータを印刷・製本し、前籍校の教室に掲示してもらった。(日曜日を除く18日間で28種類の鳥を調べた。)
- ・iPadのビデオチャットアプリ『Tango』を使用し、前籍校と本人のいる病室間で交流を行った。モニターを通して担任や友達と会話をしたり、前籍校の様子や教室内で本人の作った図鑑が展示されている様子を見たりした。
- ・前籍校とのビデオチャット交流に備え事前に数回、本校の教員や小学部の児童と『Tango』でゲームを行ったり、挨拶や簡単な会話を行った。

iPad 使用に関するルール

- ①使用は月曜日～土曜日の10時から17時まで
- ②1日の使用時間は1時間。(体調管理)
- ③使用しない時はかばんの中で保管(盗難防止)

指定したインターネットサイト

- ・Yahoo!百科事典(小学館「日本大百科全書」)
- ・京都府レッドデータブック・キッズgoo 図鑑
- ・コニカミノルタ 絶滅危惧種動物図鑑 ・デジタル図鑑「野鳥図鑑」
- ・Yahoo!JAPAN きっず図鑑 ・ことりのさえずり
- ・RDB 図鑑～希少な生きものたち～ - インターネット自然研究所

○対象児(群)の事後の変化

- ・iPad の操作については予想以上に早く慣れ、興味のある課題であったので、積極的に取り組めた。体調不良ではないが、治療のために安静が必要であり、課題や宿題を終えても、時間を持って余していたが、訪問教育のない日でも時間を有意義に使うことができた。
- ・『Tango』を使ったビデオチャット交流では、クラスメイトから、「図鑑見たよ。」「すごいね。」などの言葉がけによって、達成感を味わえた。また、「早く帰ってきてね。」「待ってるよ。」など、声をかけられることで、前籍校へ戻ることへの不安を和らげることができた。
- ・iPad を使用した取組においては、保護者は最初肯定的ではなかったが、本人が積極的に学習に取り組む様子や成果物を通して、退院の際には、大変感謝されていた。本人も「iPad で好きな鳥を調べて鳥図鑑を作ったことがとても楽しかった」と感想を述べていた。



鳥図鑑の教室掲示の様子



製本された鳥図鑑

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・病室(ベット上)での学習を行う上で、iPadの使用は、パソコンよりも起動が早く扱いやすかった。またキー入力に慣れていない本人にとって、50音順でのキー入力が可能であり、画像の検索・貼りつけも簡単で、1回の説明で操作することができ、学習意欲が高まった。
- ・ビデオチャットを行い、リアルタイムで学校の様子を視聴し、友達と会話したことにより、「みんなが待っていてくれる」ということを実感し、入院生活の孤独感を和らげることができた。
- ・「鳥図鑑を作る」という目標を立て、自分の得意なことや、好きなことにじっくり取り組んだことで、気持ちの安定が図れ、充実感や達成感を味わうことができた。

○エビデンス(具体的数値など)

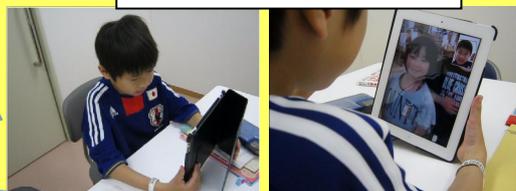
- ・「鳥図鑑」の作成において、実践期間18日間で28種類の鳥を調べ、ノートを作成した。
- ・カメラの動画機能を使って、週3回、本校の児童と物語の感想のやり取りを行った。自分の思いを伝えたり、感想を聞いたりすることで、「つながる」楽しみを知ることができた。
- ・本校の児童とのやり取りを行ったことで、最初はビデオチャットには抵抗を示していたが、前籍校の友だちと話したいという気持ちにつながり、交流が実現した。当日は、興奮した様子で友だちと約20分間交流し、「楽しかった!」と笑顔で感想を述べていた。

○その他エピソード(画像などを含めて)



本校とつないで

ビデオチャットの様子



前籍校とつないで

活動報告書

報告者氏名: 大杉 仁彦

所属: 京都市立桃陽総合支援学校

記録日: 2014年 2月 26日

【対象生徒(群)の情報】

○学年

中学部 3年

○病名

炎症性疾患

○病名と困難の内容

- ・約2ヵ月間の入院。一日10回以上の下痢、また血便もあった。夜中もトイレに何度も起き、睡眠が十分にとれず、治療のため絶食が続くなどして、日中の集中力が低下した。
- ・高校受験を控え、前籍校からの学習の遅れを非常に知りたがっていた。



【活動目的】

○当初のねらい

- ・前籍校の授業の進度を知ることで、学習の遅れに対する不安をやわらげる。
- ・退院後の前籍校へ復帰に向けて、クラスの様子を伝える。

○実施日

平成25年10月3日・4日

○実施者

担任 : 加納 由紀子

○実施者と対象生徒の関係

訪問教育担当



iPad で撮影した前籍校のクラスの様子

【活動内容と対象生徒(群)の変化】

○対象生徒(群)の事前の状況

- ・訪問教育の期間が、前籍校の定期テスト直前であり、また高校受験も控えていたため、前籍校からの授業の遅れを非常に気にしていた。
- ・入院前、本生徒がピアノ伴奏をする予定だった合唱コンクールについて、クラスの練習状況や友人たちの様子を知りたがっていた。

○活動の具体的内容

<合唱コンクールの録画 10月3日>

- ①iPad で教室でのパート練習の様子・音楽室での全体練習の様子を録画
 - ・パート練習時には、クラスの友人一人ひとりから、本生徒へ向けてメッセージを録画した。
- ②病室にて視聴
 - ・翌日の訪問教育時に、授業の様子とともに視聴した。

<授業録画 10月4日>

①iPad で授業録画

- ・前籍校では今どこを学習しているのかを知る機会とし、学習への意欲向上をねらいとし、担任が前籍校を訪れ、本生徒が希望した英語の授業を iPad で録画した。

②病室にて視聴

- ・午前中に前籍校で録画したものを、午後の訪問教育時に視聴した。
- ・限られた学習時間の中で効率的に学習できるよう、50分間の授業を5つの場面に分け、見たいものを選んで視聴できるようにした。
- ・本生徒は b,c,d,e を選んだ。

a. 単語の確認

b. 聞き取りテストの問題

c. 聞き取りテストの答え

d. 授業の本題「It is ~ for 人 to …」

e. 生徒の発表, まとめ



iPad で視聴した前籍校の授業の様子

○対象生徒(群)の事後の変化

- ・「学校の授業を受けたい」という願いの実現が意欲向上につながり、よく内容を理解することができた。
- ・約1カ月ぶりにクラスの友だちや先生を見たり、授業中の友だちの発言などを聞いたりすることで、入院による孤独感や不安が和らいだ。
- ・授業を閲覧したことで、現在の前籍校の学習進度を知り、今後の学習計画を立て、より熱心に学習に取り組む姿が見られるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・今回、授業の視聴を目的にこの取組を行ったが、授業の視聴に加えて、久しぶりにクラスの友だちや教室の様子を見たことで、「早く学校に行きたい」という気持ちが湧き、治療に対する前向きな姿勢が伺えるようになった。
- ・英語への苦手意識が強く、いつも授業についていけなかったと話す本生徒が、今回 iPad による授業を視聴し、内容が理解できたことに喜びを感じていた。

○エビデンス(具体的数値など)

- ・分かる喜びが学習意欲の向上と自主学習の定着化につながり、訪問教育が始まる前に2時間の学習、訪問教育のない日は5時間の学習を行うという目標を自分で立て、退院まで続けた。
- ・今回の実践を経て、入院期間中に【学習確認プログラム・確認テスト】(注1)を病室で受験。英語のテストでは、中3の5月に受けた1回目と比べ、正答率が15%もアップした。

(注1)「学習確認プログラム」は京都市教育委員会の支援と京都市立中学校教育研究会の協力により、京都市立中学校校長会が企画・運営する京都市独自のプログラム。

○その他エピソード(画像などを含めて)

- ①課題点として、授業を録画するために、本校教員が前籍校を訪れる必要があり、時間と労力を要する。そのため、今回は1回の実施となったが、この取組の成果は大きなものであった。本人にとって、授業そのものの視聴に加えて、教室やクラスメイトの様子を見られたことも、学習意欲の向上・入院や治療に対する不安緩和につながったと考えられる。
- ②訪問教育のない日の自主学習については、訪問教育の児童生徒の課題である。生徒が自主学習をする際、病室から見たい時に、授業を視聴できるようにするため、アプリ『Ustream』の検証を今後行いたいと考えている。

アプリ『Ustream』の実施に向けての課題

- ・iPadを2台使用し、1台を前籍校に設置・映像配信として使用。
- ・パスワードなどセキュリティ面の検証が必要。
- ・前籍校に映像配信作業の協力を得て、生徒が病院に在ながらの授業視聴を可能としたい。



『Ustream』

- ③今年度の訪問教育を実施した児童生徒は8名であり、病状や学習課題はそれぞれ異なっている。そのため、個に応じた学習支援や自立活動などの教材研究や授業の準備が必要とされる。iPadを使用し、アプリを活用した個別学習や前籍校と交流することで学習意欲の向上につながった。

- ④現在訪問教育在籍の中学2年生において、前籍校英語の授業でiPadを使っでの交流を3度行った。普段からiPadを授業で活用されており、リアルタイムでの授業交流に大変興味を示され、快く受け取ってもらえた。

★実施日

平成26年2月17日、19日、21日、25日
英語の授業中 約10分間

★内容

先生や生徒と、簡単な英会話のやりとり



病室の様子



前籍校クラスの様子

リアルタイムの授業参加を通しての成果と課題

- ・本人にとって、リアルタイムで授業に参加できることの喜びは格別であった。
- ・これまでは、本校の教員が、授業配信するために前籍校へ行って実施していたが、今回は前籍校の担当教員がiPadを扱い、交流を行えたことは、大きな前進である。
- ・友だちとのやりとりの中で、本人が学習不足を認識し、学習意欲の向上につなげることができた。
- ・本人の声は教室中に聞こえたが、教室の生徒たちの声は、iPadから遠い声やマスクをしている生徒の声は聞こえづかった。2回目からは、教科担任に、「話す際はiPadに近づくこと。はっきりと話すこと。」などを事前指導してもらうことで、聞き取りやすくなった。
- ・限られた訪問教育の学習時間にとって、10分間という授業参加は適度な時間であった。

⑤生活リズムの改善と自主学習の定着に向けて

★訪問教育のない日は、朝10時に担任とビデオチャット

- ・訪問教育の児童生徒は、毎日規則正しく学習が行われる院内学級と違い、週3回の2時間の学習になる。そのため、訪問教育のない日は、規則正しい生活を送ることが難しいことが課題であった。iPadを保護者管理の元、本人に貸し出し、訪問教育のない日は、朝10時に、本校の職員室にいる担任が、病室の対象児童へビデオチャットを行い、体調の確認や、本人の好きな活動である対戦ゲームを行った。その際、ビデオチャット後すぐに宿題を始められるように、机に教科書・ノートがあるかの確認をし、自主学習を始めるよう促した。

★スケジュール管理アプリの活用

- ・訪問学習のない日でも、自主学習に取り組めるように、スケジュール管理アプリ『epic WIN』を使い、楽しく課題をクリアできるように工夫した。本人と担任が相談し、「夕食までに宿題をする」「音読をする」など11項目のタスクを取り決めた。ひとつずつクリアするとポイントが貯まり、主人公が成長するというゲーム性のあるアプリであったため、ゲーム大好きの本児童のモチベーションを高め、意欲的に学習やリハビリに取り組めるようにした。

★実施日

平成26年11月25日～12月19日

★生活リズムの改善と自主学習の定着に向けて成果と課題

- ①訪問教育のない日の定刻に担任と話すことで、生活リズムを整えることができた。毎回担任とゲームを通して話ができること、本人が興味を示すアプリを活用することで、生活リズムが改善し、学習が定着した。
- ②スケジュール管理アプリを活用することで、本人が主人公を早くレベルアップさせたいために、苦手意識のあった学習や厳しいリハビリなどの課題にも挑戦し取り組むことができた。
- ③iPadを保護者に預けて取り組むため、保護者の理解と協力を要する。期間を終了した際は、保護者は大変喜んでおられたため、この取組は有効的であった。今後も個の児童生徒に応じた学習アプリの検索や検証やスケジュール管理アプリの、より効果的な活用の検証を行う。



本校職員室の担任と病室にいる児童とのビデオチャットの様子



スケジュール管理アプリ『epic WIN』